



た幅のあるスタート枠を選手が正確に移動するための指示出し、デフの配布などなど、岡野先生や石田さんはじめ愛知OLCの皆さんの指導のもと大役をなんとかこなせた。

また、12日ロング決勝の仕事をやらせてもらうために、9日から続けてきて慣れたトレイルの仕事を、トレイルとしては最終日の12日だけOBの大学生8名にバトンタッチした。後輩が様々な仕事を経験できるようにと快く引き受けてくれた先輩には本当に感謝する。

スタートなどかなり選手に近い位置の仕事をやらせてもらえて良かったです。
(高2 戸田)



【ワット 給水 横断】

給水は8日ミドル予選・併設、12日ロング決勝・併設、14日リレーでは、主に中学生が活躍した。

給水の仕事は、スポーツドリンクを2.5倍に薄めたものと水をそれぞれ紙コップに注ぎ、机に置く。それだけの仕事だが、次から次に来る選手（特に併設では多いと700人ほど）への対応は大変だった。



印象的だったのは、眼前を過ぎる選手に応援したくなくても一切無言でやらなければいけない選手権の緊張感と、それと対照的に選手の「ありがとう、いただきます！」の言葉に「頑張ってください！」と自然に返せるようになってきた併設時の中学生の対応振りであった。

世界に魅了された8泊9日

WOCの愛知県開催が決定されてから毎年、生徒・保護者に「2005年のお盆は明けておくように」と言い続けてきた。そして、その甲斐もあって（保護者の理解があって）中学1年から高校2年までの25名誰一人欠けることなく参加することができた。そして8泊9日の運営手伝いと併設大会参加を、ケガや病もなく無事成し遂げることができた。またそれは、スタッフ皆さんの配慮、保護者・OBの支援があってこそ緊張感を保ち続けられ達成できたと感謝している。

パートタイムスタッフの感想

【トレイル エスコート】

愛知OLCの野口さんから最初にお話を頂いた時には、仕事の実態を知らず安請け合いました。9日のモデルイベントの前に説明を受け、実際に車椅子で練習をして、皆初めてその仕事の大変さに気づいた....

石のごろごろする山道では乗っている側はすごく振動を感じ恐々になること。一人で歩いている時には気にもしない勾配の坂でも一人では押し上げられないこと。DP近くでの細かな選手の動き（指示）に素早く反応すること...。そしてそれは、実際に12名の車椅子選

手を交代でエスコートさせてもらって本当に心身全てで実感した。そして、2時間半の競技時間一杯使う選手の張り詰めた緊張感にも圧倒され、こちら心身ともに張り詰めた。3泊自炊をしながらのキャンプ場生活から、9日に野外教育センターに宿泊が変わったのにもかかわらず、なかなか落ち着く暇なかった。

しかし、最後には車イスの操作に慣れただけでなく、その担当した選手が全力を出し切れるように願う気持ちも生まれ、単に「中高生に“ボランティア体験”をさせる」という聞こえのいいものに終わることなく、顧問も含めて大変貴重な経験をさせてもらったと思っている。また機会があれば積極的にお手伝いさせていただきたい。

エスコートは言葉が通じないことや、押すことなどで苦労しました。選手が考えている時の待つ態度・間合いもミスが多かったです。障害者の方や外国人の方とのこういった関わりは大事にしていきたいと思いました。(中2 馬場)

【ワット スタート】

10日スプリント予選決勝・併設、12日ロング決勝・併設と高校生7名がスタートの仕事に携わることができた。

選手の確認、いくつにも区切りられ



一方横断誘導はかなり大変であった。山から給水地点に出てきて、車道を横断させてまた山中へ送る仕事。県など各所への許可がとってあるというものの、地元住民・観光客・WOC観戦者の車の量はかなり多く、山道ということでスピードもかなり出ていて大変であった。給水担当と横断担当を皆で交替しながら務めた。これはさすがに危険も伴うので、自ら動いて何度も大声で生徒に指示を送った。生徒もだんだんとそれぞれの位置での声出し（選手や車の往來を隣位置に声で伝達連携した）や身のこなしのコツをつかんで、一時渋滞をまねいたことがあったようだが、多くの良心的なドライバーの理解のおかげで無事に済んだ。この横断でも、選手の御礼の言葉がうれしかった。



充実した9日間でした。日本代表選手には来年も頑張ってもらいたいです。（中1 伊藤）

これからの部活の中でも「仕事」をしっかりやっていきたいです。（中1 平井）

初めはやり方がつかめなくて仕事があまりできませんでした。後半は進んでできるようになっていき一生懸命できました。（中1 武藤）

仕事に対し少し反応が遅かったりしたことがあったので残念に思います。（中1 山中）

外国の人たちともっと交流を深められたらよかったです。（中1 鈴木）

世界の選手を毎日見ることができて（特にトレイルで）とても参考になりました。（中2 山田）

あまり役に立てませんでしたが、自分では満足しています。他の役員の方の顔を見ると、どこと無（足）を引っ張ってしまったような気がします。最初のうちはゴミ合いなどの「地味」な仕事ばかりでしたが、トレイルの車椅子を押すという、たぶん一生に一度しかなさそうなことができてとてもいい経験になりました。（中2 宮崎）

改めて役員の仕事の大変さを感じました。特に片付け（テントの撤収、ゴミ合いなど）はいつも大会に参加している側の時にはあまり気にしていませんでしたが、今回のことで強くその大変さを感じました。（中2 坂井）

横断誘導の仕事では学生（日本女子大）の方と交流を深めることができました。ポイント撤収では、今までの自分のダメだったところを見直す気を起こさせてくれました。ゴールの仕事では、世界の有名選手がゴールするところをこの目で見るのができて良かったです。（中2 桜井）

今回スタッフとして関わった事は非常に意義あるものとなりました。本当に役員の方々には感謝しています。（中2 徳田）

初めて大きな大会の手伝いをやって、陰では役員の方は身を粉にして用意をし、大勢が関わり、それで大会が成り立っているのがわかりました。役員なんかどうでもいいと思っていましたが、裏の仕事もすごく重要だということ学びました。（中2 田中）

全体を通してかなり疲れましたが、充実感是非常にありました。9日間意外に早く過ぎたような気がしました。（中3 早川）

人に仕事を聞くというのを積極的にできませんでした。逆に手間をとらせるようなことをしてしまいました。挨拶や返事をもっとしっかりすべきでした。（中3 小山内）

今回初めて大会の準備を手伝いましたが、とてもいい体験でした。今回でどれだけ大変かがわかりました。（中3 中別府）

前半は力仕事や日なたの仕事が多く正直厳しかったです。また、トレイルは待ち時間が長くそれも大変でした。（中3 堀田）

関係者に挨拶をしたり自分から気を利かせたり、周りの様子を常に見ておいたりする、いわば「社会性」のようなものをイヤイヤほど学習させられたと思います。（中3 児玉）

この9日間、とてもいい経験だったと思います。世界選手権も仕事をするのも初心者の僕らを面倒を見てくれた方に感謝したいと思います。できれば将来その舞台に立てるといいと思います。（中3 武藤）

自分は働くのが好きなので楽しくやれました。愛知OLCの方やトレイルの方にはいろいろお世話になってすごくありがたかったです。これからも機会があったらお手伝いしていきたいです。（高1 河村）

トレイル クラブ対抗戦 3位!

今回のWTOCの日本代表選手選考会に準強化選手として出場した高1の伴毅と桜井郁也を中心に、昨年度来トレイルでは好成績を残していたので期待はしていた。そして第2回全日本大会のE権もかかった12日の併設大会で、見事「クラブ対抗戦3位」の成績を収めた。



OLC 東海！ 真夏のクラブカップを走る！

この日はフットの手伝いをしていて、トレイルのコースはまったく見ていないということで正式参加をさせてもらった。ただ、16時受付締切りのギリギリに皆出走したので、かなり駆け足で回るようになった。しかしそれでも、丹念にポイントを見る桜井と伴が見事11点と10点を出し、もう一人中2の桜井卓が9点と、見事OLC東海として30点を挙げた。



今回世界3位になった杉本選手や、前回6位入賞の山口さん、また今回運営で多くを教えていただいた田中さんや松川さんをはじめ多くのスタッフの方にこれからも御指導頂き、多く参戦していきたいと考える。地図読みの基本が習得できるだけでなく、フットでは見られない生徒の様々な個性を引き出すことのできるトレイルを、フット

とともに両立していきたいものである。

CC7 目標達成ならず...

13日のCC7。昨年運良く正規19位となり、今年は東北大やJMOCチームに勝って「under150」獲得をと高い目標で臨んだのだが、結果は惜しくもP1(前年度インターハイと同じく、そのポイントには到達しているのだが「パンチ薄...」)となり、達成はできなかった。

しかし今年は、OBチームがエントリしたこと、前日までのチームメンバーでの地図読み、ビジュアルでの給水、前走者から情報を聞くなど、今までにない来年につながる積極的な動きも見られ良かった。



クラブカップのビジュアル区間。給水サポートの重要性を知るOLC東海は、走る仲間に給水で応援

世界に向けてGO! 東海

14日のリレーの日、日本代表アンカーを務める松澤選手から素晴らしいものを頂いた。会場で皆が高々と掲げていた日の丸シートへの代表選手全員のサインである。そしてそこには「世界に向けてGO! 東海」の文字。リレー時は全員会場内外で給水やゲートチェックなどの仕事をしていて、また午後もchallenge2に参加し、引き上げる時には突然の雷雨があったことで、皆さんにお礼を言うこともできなかったが、帰宅して上げた時には、今回の9日間の疲れが吹き飛ばしエールの言葉を見て、本当に感動し感謝した。

日頃から面倒を見ていただいている代表選手の活躍ぶりを目の当たりにし、中高生も随分刺激されOL感が変わったことと思う。競技レベルとして、JMOC代表やトレイル日本代表を狙える生徒はいる。ただまだまだOLに対する情熱や意気込みに関しては淡々としている。今回「世界」を感じたことで、この「世界に向けてGO!」が我がOLC東海の新たな合言葉になることを期待する。

この場を借りて、生徒が好い経験ができるようにと多大な配慮をいただいたフットトレイルのスタッフの皆様、また日本代表選手の皆様にご礼申し上げます。(大野聡生)

